

【入選】

水が与えてくれたこと

仙台市立郡山中学校
二年 佐藤結愛

私は過去二回の出来事から、水の大切さというものを学びました。

一つ目は、東日本大震災直後の出来事です。私は当時まだ一歳で記憶はあまりないのですが、小学校一年生の時の三月十一日に母から初めて震災による家の被害について聞きました。当時はまだ新築だったため家自体に被害はありませんでした。しかし大きなゆれによって水道管が破裂し、約三日間断水となりました。その三日間は親せきの家でお風呂を借りていたそうです。しかし私はこれを疑問に思いました。なぜ遠い所へ行つて借りてまでお風呂に入らなければならなかったのでしょうか。体を清潔に保つというのは分かりますが、震災で大変な被害を受けている事を言っている場合ではなかったのではないのでしょうか。しかし、母にそれを聞くと、

「じゃあいつもお風呂に入るとどんな気持ちになっているか考えてもらん。」

と言われました。そして私は言われた通りいつものお風呂での自分の様子を思い返してみました。すると、私にとってお風呂は、音楽を聴きながら歌ったり、家族とたあいもない話で盛り上がりがあったりして家の中で一番心の安らぎを与えてくれる場所だということに気付きました。また、そのことに気付いたおかげで、震災のときに不安でいる時間がほとんどの中で少しでも心の安らぎを得る時間を増やすという目的で借りてまでお風呂に入ったということにも気付くことができました。さらに私はこの話を聞いて、水がなくなることによって心の安らぎを得る時間が減ってしまうと気付く、水の大切さを知ることができました。

二つ目は図書館で「水をくむプリンセス」という本を読んだことです。スーザン・ヴァーデさんが文章を書いたこの絵本には、アフリカのある水くみ少女の一日が描かれています。この本を読み、世界には学校にもいけず一日中水をくみに川へ行く子供がいることを知りました。また、この本を読んで発展途上国の水の普及について興味をわき、それから家のパソコンなどで調べていくようになりました。現在六億人以上の人々が安全な水源を利用してきておらず、三百万人を超える子供たちが毎日重い水を運ぶために長い道のりを歩いています。しかし、その子供たちが運んでいる水の多くは、泥や細菌、動物のふんなどが混じった非常に危険な汚れた水です。またそれを浄水処理しなのまま飲んでしまう子供が多く、汚れた水が原因となる下痢で命を落としてしまう乳幼児が年間三十万人、毎日八百人以上にもなっています。また、他にもたくさん水が必要なものがある中で一回約二百リットルもの水を使うお風呂なんて毎日入れるわけがなく、心の安らぎを得ることなどできません。

しかしだからといって私たちに一体何ができるのでしようか。

私は自分たちが使っている水をきれいに保つというところから始めたらいいと思います。食器を洗うときのことを思い出してみてください。特に何も考えずに油や残飯を水で流してはいませんか。現在日本で問題視されている水質汚染の原因の約七十パーセントが、意外にも生活用水の汚れによるものだと言われています。それを解決していくには、一人一人がきれいな水が手に入ることを当たり前だと思わずに、世界には水に困っている人々がいるということを意識して日常で使っている水をきれいに保つことが非常に大切だと思います。そしてこの意識をしながら、ユニセフなどの募金にも積極的に協力し、できるだけ早く世界中の人々が安全・安心な水を飲めて、お風呂に入って心の安らぎを得ることができるとい世界になる時が来ることを願っています。